

勝瑞発掘だより

vol. 35

今回の発掘だよりは出土遺物から

2007. 10. 01

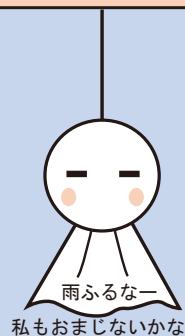
じゅふもっかん

呪符木簡をピックアップ

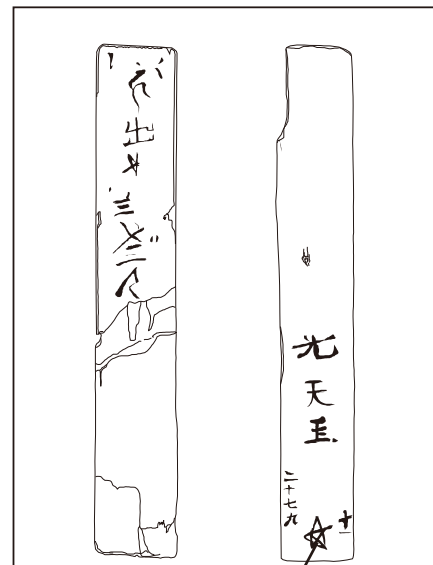
呪符木簡は

木の板に書かれた

おまじないです。



勝瑞出土の呪符木簡



※ 勝瑞で出土した呪符木簡に書かれている文字やマーク

★ 木簡に書かれているこの星印は五芒星と呼ばれ、世界的にもよく使われるマークです。日本では、平安時代の陰陽師・安倍晴明が使用したことで『晴明桔梗印』とも呼ばれています。また、三重県の志摩地方の海女さんは魔除けなどとして鉢巻などに五芒星をかき『セーマン』といていたようです。

きゅうきゅうによりつりよう
『急々如律令』

「至急定めのとおりせよ」といった意味で、もともと中国の漢の時代に、すでに法律に書かれているものは公の書類の終りに『如律令』と書いたことに由来するといわれています。呪文的な使われ方は後漢時代(25～220)には確認されており、日本では奈良時代末頃からみられます。

『九九八十一』
『八九七十二』

かけ算を書いているのではなく、陽数、陰数の最大数を九回加えた総数を意味するもので呪文の一種。

ぼんじ
梵字

梵字は、古代インドで使われていたサンスクリット文字のことで、仏教とともに日本にも伝播したもので、現在でもお墓や卒塔婆などでみられます。勝瑞出土の呪符木簡の中には『文殊菩薩』(知恵をつかさどる菩薩)を示す梵字が書かれたものが出土しています。

呪術は平安時代ぐらいまで朝廷のおこなう呪術的な祭祀が中心でしたが、中世になると一般大衆にも広まっています。

呪術は、豊作を願ったり、病気を治すために用いたりする一方、戦の勝敗を決定するとされたり、時には人を呪い殺すために使用されたりもしました。現代人が思う以上に深く生活に結びついたものだったと思われます。

日本の呪術には仏教・道教・神道・修験道・陰陽道など、いろいろな形ものがありますが、その多くが大陸からもたらされたものを元にしてしています。

呪術者として有名なのは、真言密教の弘法大師こと空海、修験道の開祖？役小角、陰陽師の安倍晴明などです。一度は聞いたことがあるのでは？

勝瑞で出土した呪符木簡がどのようなおまじないに使われたものかは、まだわかっていません。400年以上前に、ここに暮らした人たちは何を願ったのでしょうか？

私の願いは
お腹がへっこんで
くれたら・・・

～勝瑞館跡13次発掘調査速報～

勝瑞館跡13次発掘調査出土遺物

外面に芭蕉文のはいった青磁碗で
中国の景德鎮窯で焼かれたものと思われます。



貝殻が大量に捨てられている遺構もみつかりました。まだ詳しいことはわかりませんが、ゴミ捨て場？



問い合わせ先

藍住町教育委員会 社会教育課

勝瑞発掘現場事務所

TEL・FAX (088) 641-3466

URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

E-mail: syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp



国文祭ではイベント目白押し
乞うご期待！

和